

～勉強会テーマ:人生100年時代のリカレント教育の在り方～

2020年11月:リカレント委員会&勉強会を開催致しました。(ご報告)

- 日時:2020年11月21日(土)10時～12時/参加者10名(企業5・大学1・協議会4)/ZOOM
- 【第1部】:進行司会:渡邊副委員長:①開講&勉強会テーマ説明②参加者自己紹介(近況報告等)
- 1、協議会発題(長尾代表):「リカレント教育とは。現状・意義と協議会の在り方」…●リカレント教育を「学び直し」と理解。●意義…技術革命・雇用流動化・人生100年時代の教育と協議会の方向と在り方。
- 2、ゲスト講話:埼玉新聞事業社・武井雅史社長/近藤取締役):テーマ「経営理念と人材育成」。トップのプロフィールの思いと言葉。職場運営のポイント。明るい職場づくりとやる気を育てる社長の存在次第。
- 【第2部】:意見交換会。グループ分け:敬称略(A組:長尾・武井・近藤・金丸・芝原)(B組:渡邊・別府・金子・森部・三瓶):各組意見交換と報告。(A:武井社長の人柄と商社経験と「組織と人」の運営を学ぶ/B:人事コンサル・大学人から最近の若者の仕事観と気質の変化を共有化しその育成と教育を研究する。
- 【総括】:次回は第6回フォーラム:2021年2月27日(土)開催予定。2021年度リカレント委員会事業計画と人生100年時代の①協議会ハブ化②企業の使命と役割③個人の考え方と取組みを提示予定。



■【特集】「協議会とリカレント教育」(長尾代表)●①リカレント教育とは:「学び直す事」と理解。発祥地では「フル働きフル学ぶ」が常態だが我国では「働く合間に学ぶ」会社中心の考えが壁になろう。●②リカレント教育の意義は「何を学びどう活躍するか」がポイントで協議会は①ハブ②道しるべ③案内役を果たして、多様多彩な「リカレント思想」を実現したい。

■【参考】(左写真:11/21勉強会参加者)

■【ゲスト(株)埼玉新聞事業社・武井雅史社長】:トップの考えと言葉(補佐役:近藤取締役)…●海外・貿易業務に憧れ「獨協大ドイツ語」進学後「総合商社・日商岩井(現・双日)」入社。スーダン等数次に亘る駐在経験を経て、自動車業界に貢献。退職後、縁あって広告業界埼玉新聞事業社社長就任。発声の病を患いながらも国内外で「組織と人」の在り方と人間力を鍛え「深みある人格と人柄」を形成された。●トップの言葉から…「会社はトップの人柄次第」「仕事は楽しく。笑いのある職場」「創意・創造の広告業にはダメな人はいない。全員参加の場」「注意は直接本人に。ほめる時は大勢の前で」●20人。個人尊重の魅力的な会社を実現出来ている。■【参加者の声】:●リカレント教育の現状と意義が長尾代表の説明でよく理解できた。89歳女性の現役トレーナーの生き方に感銘。リカレントの未来像を実感。●パラレルキャリアがやりがいを拡大。●社会人基礎力は「3つの能力12の能力要素」習得ではなく人材育成の軸足と判った。●自分の枠を決めている若者が増えた。目標・可能性を持たせることが課題。●感染の折GP会場担当(九州共立大)を応援していく。(文責・芝原)